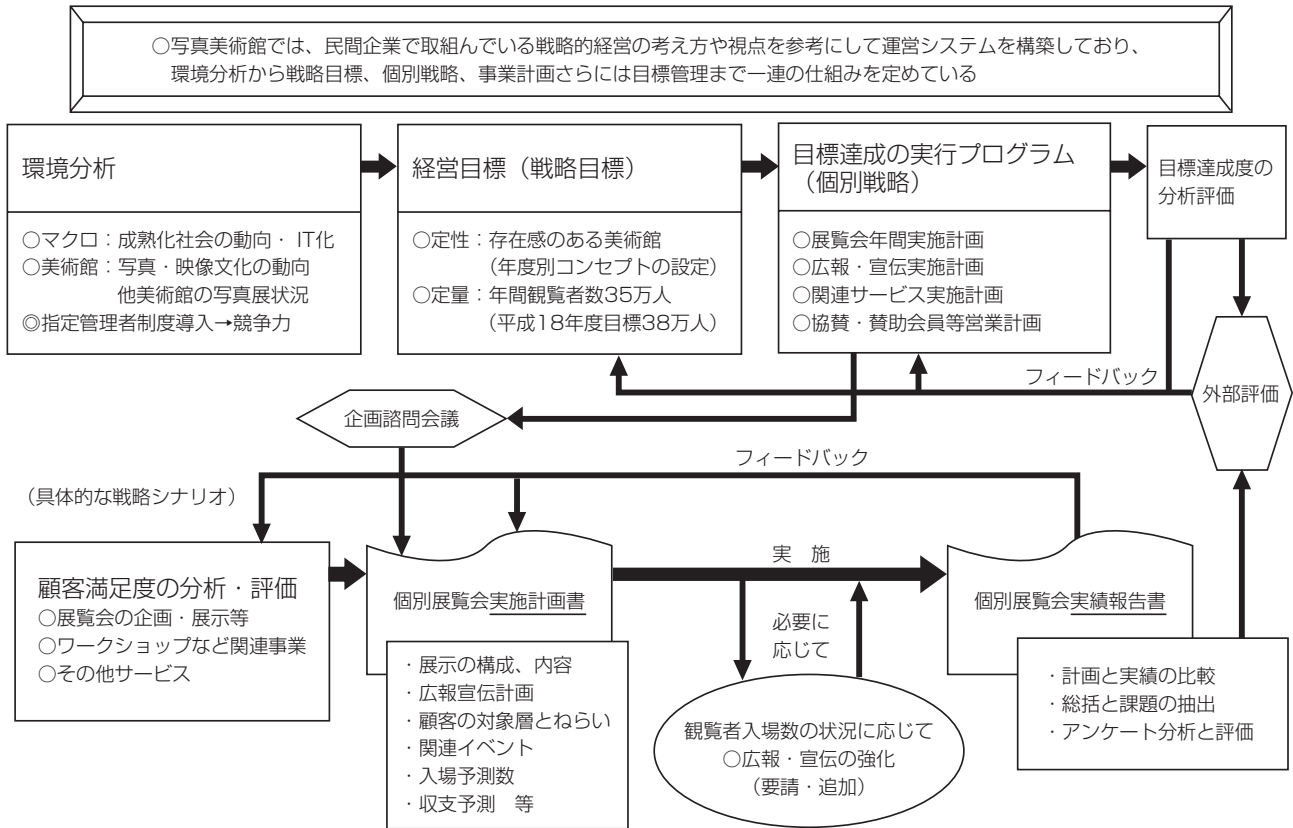


東京都写真美術館のミッションとその実現に向けて

<戦略的な運営システム>



<新たな取組み>

目指すべき方向

《 定性目標 》 「存在感のある」美術館運営。

とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。

- 写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
- 日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

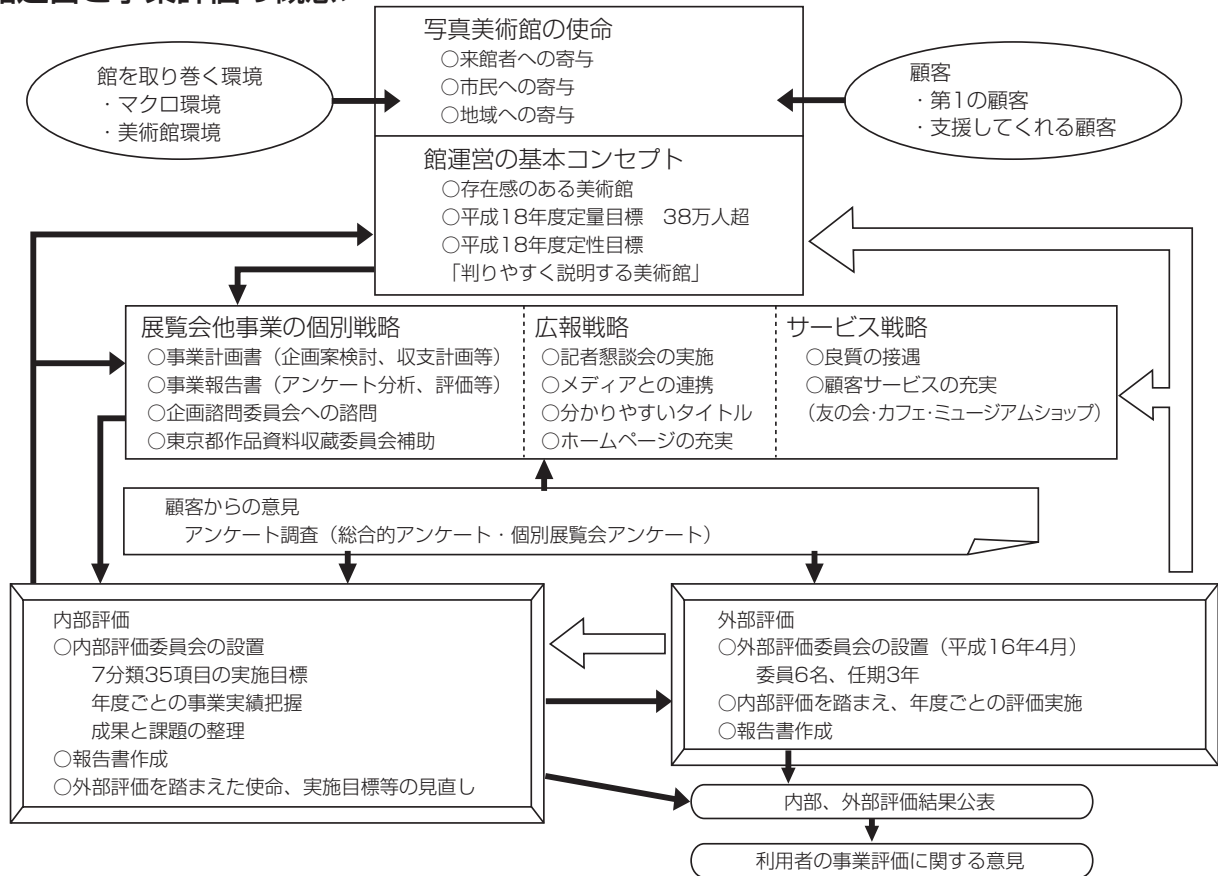
★コンセプト

平成13年度「静かなにぎわい」 平成14年度「写真(映像)とは何かを伝える」 平成15年度「感動を与える」
平成16年度「明るく迎える美術館」 平成17年度「信頼される美術館」 平成18年度「判りやすく説明する美術館」

《 定量目標 》

《平成13年度》	《平成14年度》	《平成15年度》
227,183人	364,307人	413,289人
前年度比約8千人増加 →開館以来最高記録	目標30万人超 →前年度比1.6倍	目標30万人超 →前年度比1.1倍
《平成16年度》	《平成17年度》	《平成18年度》
431,521人	441,705人	443,107人
目標35万人超 →前年度比1.04倍	目標35万人超 →前年度比1.02倍	目標38万人超 →前年度比1.01倍

<館運営と事業評価の概念>



<運営と財源>



単位：百万円

	東京都からの委託費・補助金	観覧料等収入	自主財源
13年度	790	31	27
14年度	542	80	37
15年度	492	95	42
16年度	424	114	75
17年度	391	125	73
18年度	603 ※	154	78

※平成18年度から、人件費、作品購入費を含む

<美術館評価>

美術館名	偏差値	規模
横浜美術館（神奈川）	77.7	大
愛知県美術館（愛知）	74.1	大
東京都写真美術館（東京）	72.9	中
静岡県立美術館（静岡）	72.5	大
神奈川県立近代美術館（神奈川）	70.4	大
東京都現代美術館（東京）	70.3	大

平成18年10月、日本経済新聞社による「全国の主要公立美術館の実力調査」でAAAランク、中規模館では1位の評価を得た。

展覧会事業
収蔵展

キュレーターズ・チョイス

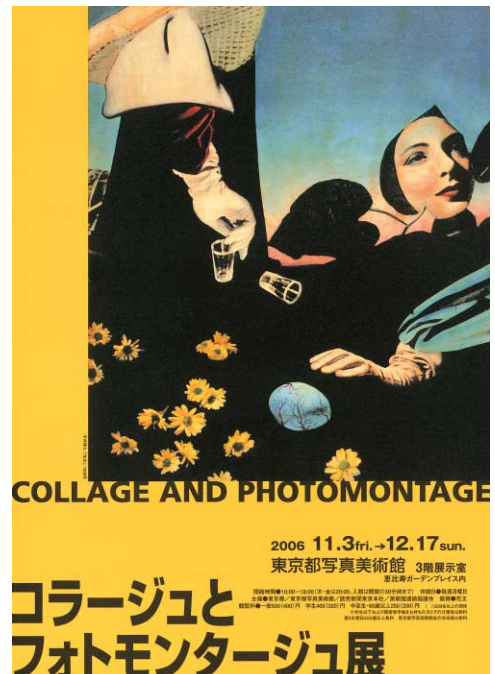
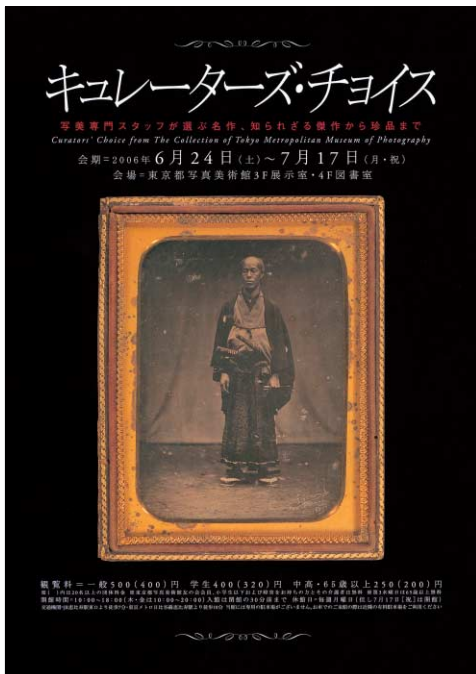
期 間 平成18年6月24日(土)～7月17日(月・祝)
21日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル
出品作品数 152点

写真美術館の専門スタッフが、館のコレクション23,000点以上の写真・映像作品、57,000冊以上の図書資料の中からユニークな視点で選んだ名作、知られざる傑作から珍品までを一堂に会した展覧会。作品自体の魅力はもちろんのこと、その魅力を伝えるスタッフひとりひとりの「顔」を見せることで、写真美術館の新たな一面を伝えるものとなった。

コラージュとフォトモンタージュ展

期 間 平成18年11月3日(金)～12月17日(日)
39日間
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
協 賛 花王株式会社
出品作品数 126点

コラージュは20世紀以前から使われている伝統的な手法であるが、写真の誕生によりその表現は多様性を増すようになり、ネガやプリントを組み合わせる1枚の写真のようにするフォトモンタージュという手法も生まれた。20世紀に入り前衛美術の影響から作品が多く見られることになり、近年では現代美術の手法として多くの美術家によっても作品が創られている。本展は収蔵品を中心として、改めて写真の視点からコラージュの意味や表現の魅力を捉え直す展覧会となった。



球体写真二元論 細江英公の世界

期 間 平成18年12月9日(土)～平成19年1月28日(日)
41日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 株式会社ニコン/ニコンカメラ販売株式会社
特別協力 清里フォトアートミュージアム
協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル/株式会
社フレームマン/日本写真印刷株式会社/株式会社
青幻舎
出品作品数 209点

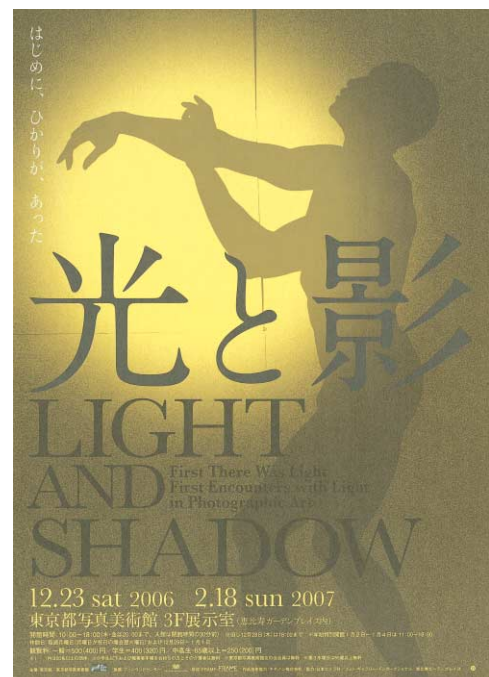
写真美術館の重点収集作家個展の一環として開催。本展では、作家がその時々出版してきた写真集に注目し、多彩な表現の軌跡を辿った。『おとこと女』(1961年)、『薔薇刑』(1963年)、『鎌鼬』(1969年)などの代表作から最新の写真集『胡蝶の夢 舞踏家・大野一雄』(2005年)までを8つのコーナーに分けて展示。合わせてこれまで正當に位置づけられてこなかった写真絵本の世界を展示。新たな作家像を展開した。



光と影—はじめに、ひかりが、あった

期 間 平成18年12月23日(土)～平成19年2月18日(日)
47日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
主 助 成 FRAME
後 援 フィンランドセンター
作品制作技術協力 キヤノン株式会社
協 力 株式会社日本カメラ社/フォト・ギャラリー・イン
ターナショナル/恵比寿ガーデンプレイス株式会社
出品作品数 120点

開館10周年を経た2006年、本展では写真芸術の原点である「光と影」をテーマに、そのはじまりから、近年のデジタル写真の台頭によって、より多様性を呈する現在の写真表現までを様々な視点から検証。著名作家や現代作家らのフィルムとデジタルによるバラエティに富んだ映像表現をく光の画><影なるもの>という二つの視点から考察し、展示した。



新規コレクション展
ようこそ 写真美術館へ

期 間 平成19年2月3日(土)～2月18日(日) 14日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
出品作品数 158点他資料

1989年から始まった、国内外の優れた写真作品と映像作品・資料の収集活動において、2005年度に新しく当館のコレクションに加わった作品・資料から選りすぐって公開。国内作品は幕末明治の黎明期の写真、近代写真(山岳風景・都市風景)、1980年代の写真と、海外作品は19世紀の旅行写真、アメリカのソーシャル・ドキュメンタリー、映像作品など、バラエティに富んだ展示を行った。

夜明けまえ
知られざる日本写真開拓史Ⅰ 関東編

期 間 平成19年3月10日(土)～5月6日(日)
19日間(平成19年3月31日までの開館日数)
巡 回 展 群馬県立館林美術館(平成19年6月30日(土)～9月9日(日))
主 催 東京都 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
協 賛 花王株式会社
協 力 日本大学芸術学部
出品作品数 307点(会期中展示替えあり)

日本全国の美術館、博物館、資料館等の史料保存機関が所蔵する幕末～明治期の写真を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」シリーズ。第一弾となる本展では、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を「1. であい」「2. まなび」「3. ひろがり」の三部構成で展覧。近年、重要文化財に指定されたエリファレット・ブラウン・ジュニア撮影の「田中光儀像」(ダゲレオタイプ)のほか、明治期のガラス写真をはじめ、調査によって所蔵が明らかとなった関東圏の多くの未公開作品など、今日まで現存する貴重な古写真を展示した。今後本シリーズは「Ⅱ. 中部・関西編」、「Ⅲ. 四国・九州編」、「Ⅳ. 北海道・東北編」、「総集編」と展開する予定。



ポスト・デジグラフィ

期 間 平成18年8月12日(土)～10月15日(日)
56日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

助 成 財団法人花王芸術・科学財団

研究助成 Asian Cultural Councilキュレーター交換プログラム／平成18年度埼玉大学重点研究「ヒューマンインタラクションの解明に基づく人間支援の脱領域的研究」

後 援 文化庁

企画協力 財団法人CG-ARTS協会／株式会社NHKエンタープライズ

協 力 ACM SIGGRAPH／アルスエレクトロニカ・センター／川崎市市民ミュージアム／長崎県美術館／凸版印刷株式会社／ソニーマーケティング株式会社／3Dコンソーシアム／シリコンスタジオ株式会社／株式会社フォトン／株式会社ポリゴンピクチュアズ／株式会社キャドセンター／ERATO合原複雑数理モデルプロジェクト／ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション／新薬師寺／ルーヴル美術館／トリオンサイト企業組合／日本ヒューレット・パッカード株式会社

出品作品数 150点

岩井俊雄「マシュマロスコープ」などデジタル・パブリックアートや、ミラノサローネで好評を得た木本圭子の複雑系数理モデルCG作品に加え、ミロのヴィーナスや新薬師寺の娑婆羅大将像のデジタルアーカイブ、併せて勝井三雄、河口洋一郎、藤幡正樹、立花ハジメらの先駆的デジタル表現を紹介。また、1960年代に国際的評価を受けた日本のCG作品や、1980年代の隆盛期から現代までのデジタル表現を検証した。ポスト(脱) デジタルの動向を探り、旧来の「デジタル対アナログ」という単純な二項対立構造ではない新しい「デジグラフィ」を考察した。さらに、同時開催の音楽イベント「ソナーサウンド東京2006」との連携を行い、ケンイシイ×森野和馬のiPod音楽／映像インスタレーションを展開した。



展覧会事業
自主企画展

新進作家展vol.4

私のいる場所：ゼロ年代の写真論

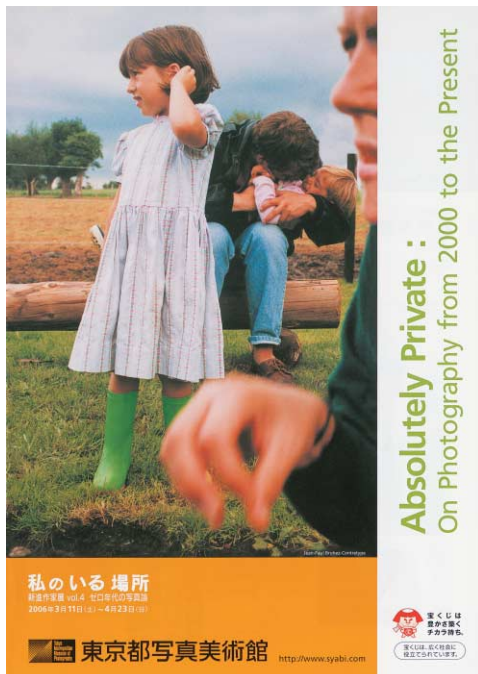
期 間 平成18年3月11日(土)～4月23日(日)
20日間(平成18年4月1日からの開館日数)
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
助 成 財団法人地域創造
後 援 オーストリア大使館/オランダ王国大使館/大韓民
国大使館/韓国文化院/ハンガリー大使館/フィンラ
ンドセンター/フランス大使館/ベルギー王国大使
館

作品制作技術協力

キヤノン株式会社
協 力 株式会社堀内カラー/株式会社日本カメラ社
出品作品数 110点

2002年から実施している「日本の新進作家」展を、開館10周年記念の一環として、国際版に拡大した。全7ヶ国から15作家・グループの作品を展示し、各国大使館等の協力を得られた招聘作家によるギャラリートークも開催した。「私性(プライベート)」という共通テーマのもと、【私のなかの私】、【社会のなかの私】、【日常への冒険】の三部構成で展開し、写真やインスタレーションのみならずビデオ、スライド、DVD映写など映像作品も紹介した。

- 【私のなかの私】 ジャン＝ポール・プロヘス アンニ・エミリア・レップアラ 塩田千春 エリナ・プロデルス 染谷亜里可 アントワーン・ダガタ
- 【社会のなかの私】 原 美樹子 サボー・シャロルタ 池田晶紀 姜 愛蘭 ジャクリヌ・ハシンク ニコール・トラン・バ・ヴァン
- 【日常への冒険】 セカンドプラネット みうらじゅん ロモグラフィ



オーストラリア現代作家

Destiny Deacon 展

期 間 平成18年4月29日(土・祝)～6月11日(日)
39日間
巡 回 展 イアン・ポッター美術館(メルボルン、オーストラリア)(平成18年8月12日(土)～11月5日(日))
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
読売新聞東京本社/美術館連絡協議会/メルボルン
大学アジアリンク・センター/シドニー現代美術館
助 成 オーストラリア・カウンシル/アーツ・ヴィクトリア/
独立行政法人国際交流基金
協 賛 凸版印刷株式会社/花王株式会社
協 力 ロスリン・オックスレイ9・ギャラリー
出品作品数 66点

近年世界的な活躍が注目されるオーストラリア先住民作家Destiny Deaconの個展。日常的モチーフや視線から成る作品を通じて、オーストラリアの歴史、現状を考察するのみならず、自己と他者の認識の差異という、我々に共通する問題について見つめ直す展覧会となった。



世界報道写真50周年記念展 絶望と希望の半世紀

期 間 平成18年7月22日(土)～9月10日(日) 44日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社／世界報道写真財団
後 援 オランダ王国大使館／社団法人日本写真協会／社団法人日本写真家協会
協 賛 キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／ティエヌティエクスプレス株式会社
協 力 ウェスティンホテル東京／文化堂印刷株式会社
出品作品数 200点

毎年開催している世界報道写真展の主催者「世界報道写真財団」の設立50周年を記念した展覧会。写真家が活躍し、メディアの力が大きな影響力を持っていたこの50年をふり返り、貴重な作品、写真雑誌、資料を展示した。記録・伝達する写真の何たるかを見直し、今後の写真表現を考察する内容となった。



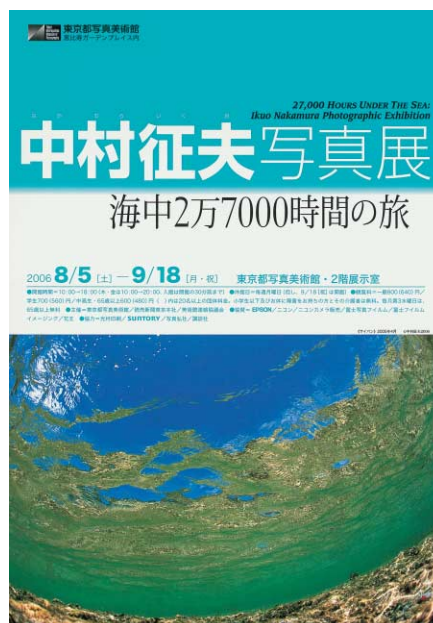
中村征夫写真展 海中2万7000時間の旅

期 間 平成18年8月5日(土)～9月18日(月・祝) 39日間
巡 回 展 秋田市立千秋美術館(平成19年1月4日(木)～2月21日(水))／安曇野市豊科近代美術館(平成19年4月18日(水)～6月3日(日))／福井市美術館(平成19年6月9日(土)～7月8日(日))／高崎市美術館(平成19年7月15日(日)～8月29日(水))
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
協 賛 セイコーエプソン株式会社／株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／富士フイルム株式会社／富士フイルムイメージング株式会社／花王株式会社
協 力 有限会社イマジン・アートプランニング／光村印刷株式会社／サントリー株式会社／株式会社写真弘社／株式会社講談社

出品作品数 218点

世界中の海を舞台に、美しい海中の風景や、海の生き物たちが見せる一瞬のドラマをひたむきに撮りつづける中村征夫の個展。我が国を代表する水中写真作家・中村征夫の40年以上に及び作家生活の中から厳選した代表作品に、最新の撮り下ろし作品を加えた218点を展観。同氏の豊饒な写真世界を一望する機会があるだけでなく、「母なる海」というかけがえのない環境について見直すきっかけともなった。

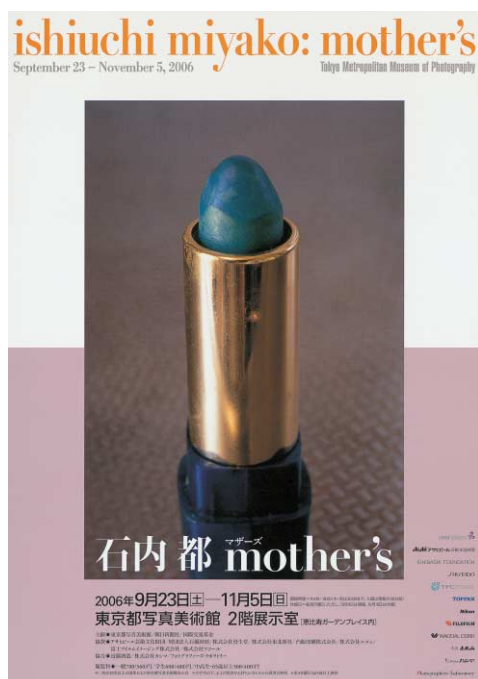
なお本展は、第26回土門拳賞を受賞。



石内都：mother's

- 期 間** 平成18年9月23日(土・祝)～11月5日(日)
38日間
- 巡 回 展** ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館(シドニー、
オーストラリア)(平成19年5月24日(木)～8
月5日(日))
- 主 催** 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
朝日新聞社/独立行政法人国際交流基金
- 協 賛** 財団法人アサヒビール芸術文化財団/財団法人石橋
財団/株式会社資生堂/株式会社東北新社/凸版印
刷株式会社/株式会社ニコン/富士フィルムイメー
ジング株式会社/株式会社ワコール
- 協 力** アサヒビール株式会社/株式会社カシマ/近藤酒造
株式会社/有限会社フォトグラファーズ・ラボラト
リー
- 出品作品数** 43点

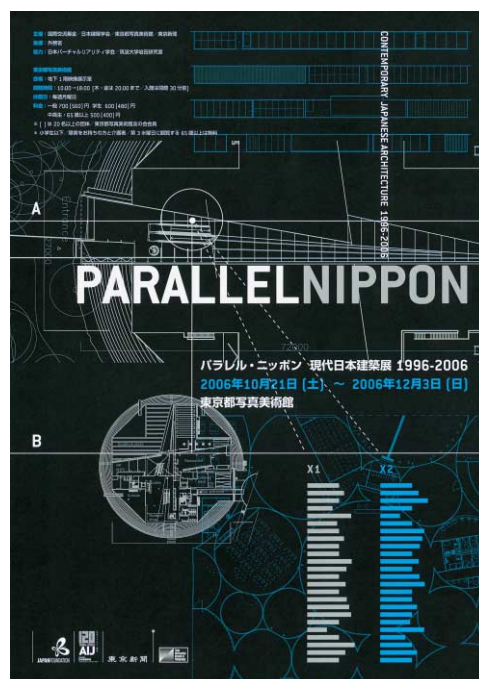
第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館で開催された「石内都：mother's」展に、未発表作品も加えて完全版として開催。石内都の母親の身につけていた衣類や、遺品を撮影した作品などからなるこのシリーズは、84歳の生を生きぬいた自立した現代女性である母親に捧げたオマージュであり、現代女性の意識において起こっている大きな変化を語る展覧会となった。



パラレル・ニッポン 現代日本建築展 1996-2006

- 期 間** 平成18年10月21日(土)～12月3日(日)
38日間
- 主 催** 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
独立行政法人国際交流基金/社団法人日本建築学
会/東京新聞
- 後 援** 外務省
- 協 力** 日本バーチャルリアリティ学会/筑波大学岩田研究
室
- 出品作品数** 150点

国際交流基金と日本建築学会による世界巡回展を海外に先立ち、写真美術館で公開。1996年～2006年に竣工した日本建築から代表的な112作品を選び、バブルからポストバブル期への変動を背景に、細やかなデザインを展開する建築界の実像を、建築写真・映像・模型を通して展示した。さらに日本の社会状況を、都市/ライフスタイル/文化という切り口で呈示し、この10年の試みがどのように社会に貢献してきたかをまとめた。また、写真美術館コレクションから「都市と建築」を捉えた写真作品、表参道/六本木ヒルズの空間を歩くVR体験装置も織り交ぜ、ギャラリートークを含め、体験型な展示として構成した。



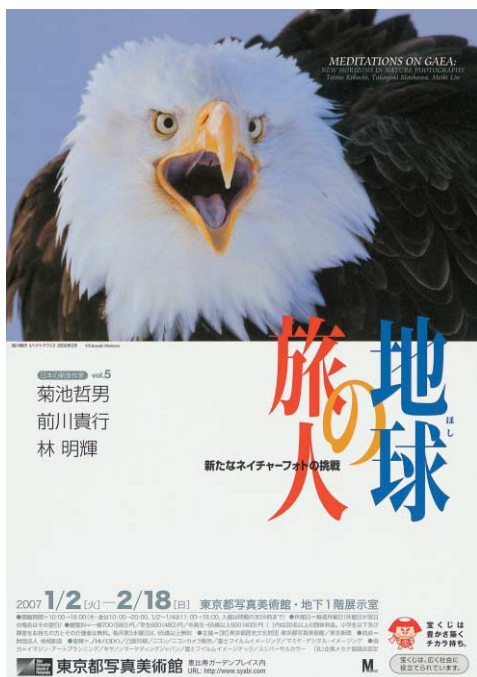
新進作家展vol.5

ほし地球の旅人—新たなネイチャーフォトの挑戦

期 間 平成19年1月2日(火)～2月18日(日) 42日間
 巡 回 展 松本市美術館(平成19年6月30日(土)～8月5日(日))
 主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
 助 成 財団法人地域創造
 協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／富士フィルムイメージング株式会社／マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
 協 力 有限会社イマジン・アートプランニング／キャノンマーケティングジャパン株式会社／富士フィルムイメージテック株式会社／株式会社ユニバーサルカラ

出品作品数 120点

日本の新進作家展第5回目を迎える本展では、近年活躍のめざましい3名のネイチャー・フォトグラファー 菊池哲男・前川貴行・林 明輝を紹介。自然と人間の関係について振り返るとともに、自然へのカメラアイ「ネイチャーフォト」の意義について考察した。また、本展開催にあわせ、「自然」をテーマにした写真公募展を開催。315点の応募があった。



マグナム・フォト創設60周年記念展
 “TOKYO” マグナムが撮った東京

期 間 平成19年3月10日(土)～5月6日(日)
 19日間(平成19年3月31日までの開館日数)
 主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
 マグナム・フォト東京支社／株式会社NHK情報ネットワーク
 後 援 アメリカ合衆国大使館／プリティッシュ・カウンスル／フランス大使館
 助 成 財団法人地域創造
 協 力 株式会社INAX／株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／日本ヒューレット・パッカード株式会社／株式会社フレームマン

出品作品数 150点

1947年、ロバート・キャパの発案により写真家の権利と自由を守り、主張することを目的として発足された写真家集団マグナム。本展では、マグナムの60周年記念展として、戦後日本を訪れた数多くのマグナムの写真家たちによって「東京」というメカシティがいかに写し撮られてきたかを、1950年代から2000年代までを6パートに区切り、「東京」をテーマとしたモノクロ・カラーによる写真・映像作品150点で展開した。

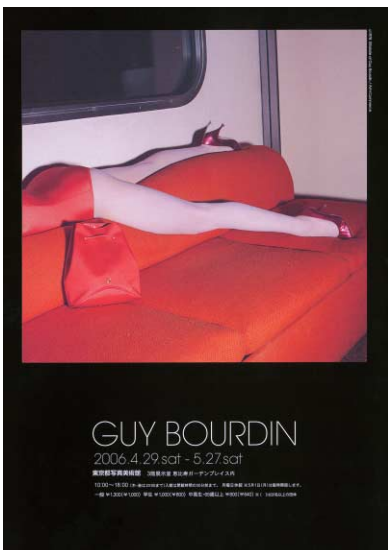


展覧会事業
共催企画展等

ギィ・ブルダン

期 間	平成18年4月29日(土・祝)～5月27日(土) 26日間
主 催	CUBE INC.
後 援	東京都写真美術館 フランス大使館
協 賛	シャルルジョルダン/ランバン/モエ&シャンドン/NARS/ヴァンクリーフ&アーペル
協 力	全日本空輸株式会社/ジョエル・ロブション/カラーキネティクス・ジャパン株式会社/株式会社クリエイティブリソースインスティテュート/日本ヒューレット・パッカー株式会社/株式会社堀内カラー/ウェスティンホテル東京

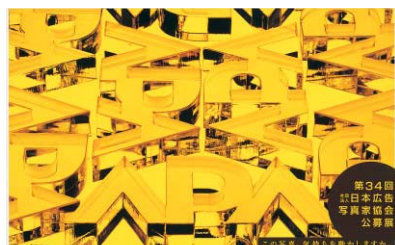
20世紀で最も影響力のあるファッションフォトグラファーの1人であるギィ・ブルダン。日本での初の写真展となった本展では、1980年代に東京で撮られた貴重な写真をはじめ、ギィ・ブルダンの生涯における作品の全容を公開。現在のファッション・シーンを初めとする日本のクリエイティブに多大な影響を与え、ともに、日本のクリエイティブのイメージ・メイキングにさらなるインパクトを与えることとなった。



第34回社団法人日本広告家協会公募展

期 間	平成18年4月29日(土・祝)～5月14日(日) 15日間
主 催	社団法人日本広告家協会
後 援	東京都写真美術館
協 賛	コダック株式会社/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社ニコン
協 力	キヤノンマーケティングジャパン株式会社/エプソン販売株式会社/オリンパスイメージング株式会社/株式会社フレームマン/ワールド印刷株式会社
後 援	経済産業省/文化庁

広告業界における唯一の団体である広告写真家協会による公募展。公共広告部門と企業・商品広告部門がある。第34回公募展の公共広告部門のテーマは「地球環境」、企業・商品広告部門は自由であった。経済産業大臣賞、文部科学大臣賞などの入賞9作品と入選100作品を展示した。今回は昨年に比べ2割増の496名が応募し、特に学生の応募が多く、入賞者にも学生が4名入り、力量が向上していた。



マイケル・ケンナ写真展「IN JAPAN」

期 間	平成18年5月20日(土)～6月25日(日) 32日間
主 催	有限会社ラム
後 援	東京都写真美術館
協 賛	Joy of Giving Something, Inc./Nazraeli Press/株式会社出版協同社
協 力	凸版印刷株式会社/株式会社フレームマン/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社写真弘社

世界屈指のランドスケープフォトグラファーとして活躍するマイケル・ケンナは、被写体との「対話」を通じ、その土地に残された人々の記憶や時間を手繰り寄せるといった自らの創作スタイルで、叙情あふれる芸術的な作品を数多く世に送り出してきた。本展では、彼が愛してやまない美しくも幻想的な「日本」の姿を、近年集中的に撮り続けている北海道から沖縄に至るイメージ152点で構成。マイケル・ケンナ「IN JAPAN」シリーズの集大成ともいべき展覧会となった。



写真の町 東川町海外作家コレクション展—20年の軌跡—

期 間	平成18年6月1日(木)～6月18日(日) 16日間
主 催	東川町<写真の町>実行委員会
共 催	「東京写真月間2006実行委員会」/社団法人日本写真協会/東京都写真美術館
協 賛	全日本空輸株式会社/キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/共立エステート/サッポロビール株式会社/シグマ/JFEメカニカル/大成建設/竹中土木/地崎工業/東京シティ青果/株式会社ニコ/ニコカメラ販売株式会社/沼津第一青果/フジテック/富士フィルムイメージング株式会社/ほくほくファイナンシャルグループ/みずほコーポレート銀行/八重洲地下街/旭川食糧/旭川信用金庫/旭川ターミナルホテル/旭川トヨタ自動車/旭岳万世閣ホテルベアモンテ/石屋製菓/AIR DO/HJK/NTTドコモ北海道旭川支店/学校法人北工学園/コンサドーレ札幌/三機工業北海道支店/食創/JA上川地区農協連絡協議会/ツルハホールディングス/トップツアー旭川支店/トヨタレンタリース旭川/ニトリ/日本メディカルプロダクツ/北央信用組合/北洋銀行/北海道ゼロックス/北海道中央食糧/北海道電力旭川支店/北海道日本ハムファイターズ/北海道フードフロンティア/わかサリゾート/わかさいも本舗/JAひがしかわ/東川町観光協会/東川町商工会/東川建設業協会/東川振興公社/東川町土地開発公社
後 援	外務省/アメリカ大使館/オーストラリア大使館/オランダ王国大使館/カナダ大使館/チェコ共和国大使館/中華人民共和国駐日本大使館/駐日大韓民国大使館
助 成	独立行政法人国際交流基金/財団法人朝日新聞文化財団/北海道市町村振興協会

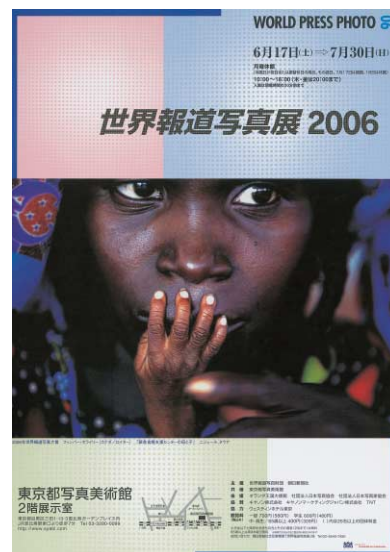
北海道の屋根、大雪山を仰ぐ東川町は1985年、全国で初めて「写真の町」を宣言し、国際写真賞「東川賞」を制定して国内外の優れた写真制作とその作家を顕彰してきた。本展は「写真の町」20周年を契機として、町外未公開作品も含む、東川賞海外作家賞作品コレクションを公開。現代の先端的な意識を描いた写真作品から社会の根幹を見据えたドキュメンタリー作品まで、世界の多様さを内容とした展覧会となった。



世界報道写真展2006

期 間	平成18年6月17日(土)～7月30日(日) 38日間
主 催	世界報道写真財団/朝日新聞社
共 催	東京都写真美術館
協 賛	キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ティエヌティエクスプレス株式会社/ウェスティンホテル東京
協 後 援	オランダ王国大使館/社団法人日本写真協会/社団法人日本写真家協会

2006年の世界報道写真大賞は、アフリカ、ニジェールの緊急食料支援センターで母親の唇に手を当てた子どもの写真だった。繰り返される紛争、自然災害、事件は多くの人々を苦しめ、命を奪う。オランダで開かれた世界報道写真コンテストの応募作品は史上最多の83,000点。人類が直面する現場に入り、カメラマンたちが命をかけて捉えた現実の瞬間約200点は、我々に強烈な印象を残した。



イザベル・ユペール展： Woman of Many Faces

期 間 平成18年7月1日(土)～8月6日(日) 32日間
主 催 毎日新聞社
共 催 東京都写真美術館/Joany Editions
後 援 フランス大使館
協 賛 ユニフランス東京
協 賛 アニエスパーサンライズ/アットエンタテインメント株式会社

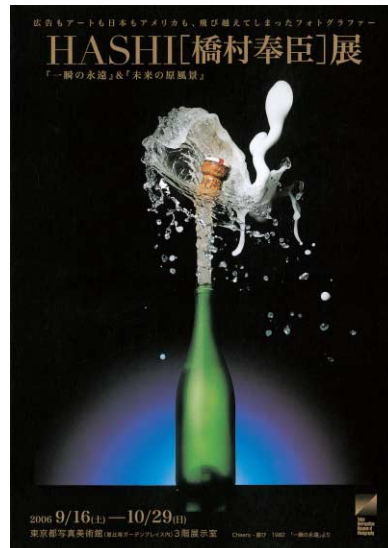
フランスを代表する女優、イザベル・ユペールだけを被写体に、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、ゲイリー・ヒル、ユルゲン・テラー、ナン・ゴールディン、ロバート・フランクら世界的に活躍する72人の写真家、映像作家が撮影したポートレートを集めた展覧会を開催した。被写体はユペール一人でありながら、展示作品はさまざまな表情の変化を見せる。それはさまざまな役柄を演じ分ける女優を被写体としているためでもあるが、それ以上に名だたるアーティストたちがそれぞれの解釈・技法によって、たくさんの顔をもつ女優の魅力を引き出して見せるからに他ならない。展覧会関連イベントとして、写真美術館1階ホールでは7月15日(土)から21日(金)までの6日間「女優・イザベル・ユペール特集上映会」を開催した(入場無料)。



HASHI(橋村奉臣)展 『一瞬の永遠』&『未来の原風景』

期 間 平成18年9月16日(土)～10月29日(日) 38日間
主 催 日本経済新聞社/HASHI展実行委員会
共 催 東京都写真美術館
後 援 東京アメリカンセンター
協 賛 富士フィルム株式会社/株式会社アートン/株式会社資生堂/TAKE・REISHiMED/株式会社ロフト/SUNデザイン研究所/出光興産株式会社
協 力 K2

ニューヨーク在住の写真家、橋村奉臣は、アメリカで「HASHI」の名で呼ばれ、その驚異的な技法で、アメリカの広告写真界に於いて不動の地位を築き上げた。本展では、2部構成で橋村氏の今日までの軌跡並びに今後の新たな方向性を紹介。写真と共に生き、常に新たな挑戦を続ける橋村氏。人生と芸術に対するあくなき好奇心と情熱、鋭い感性によって時代を追って深みを増していく作品群の展示となった。



写真新世紀 東京展2006 新しい写真表現に挑戦する新人写真家を 応援するプロジェクト

期 間 平成18年11月11日(土)～12月3日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。第29回目となる本展では過去最高となる応募人数1,505人、総数46,170点のなかから選ばれた優秀賞受賞者6組7名、佳作受賞者28組29名の受賞作品を展示。また同時に前年度のグランプリに選ばれた小澤亜希子による個展を開催した。関連イベントとして12月1日(金)には写真美術館1階ホールにて「公開審査会」(審査員: 荒木経惟、飯沢耕太郎、南條史生、森山大道、ボリス・ミハイロフ、日比野克彦)および「ゲスト審査員によるトークショー」(出演: ボリス・ミハイロフ、荒木経惟)を開催した。



第17回日本写真作家協会展 第4回日本写真作家協会公募展

期 間 平成18年12月9日(土)～12月24日(日) 14日間
主 催 日本写真作家協会
協 力 東京都写真美術館

協会の会員が出品する作品に、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。本年度は会員による作品209点と、全国の写真愛好家からの公募作品から入賞・入選した98点を加え、全307点を展示。大阪・広島にも巡回した。

平成18年度 [第10回] 文化庁メディア芸術祭

期 間 平成19年2月24日(土)～3月4日(日) 9日間
主 催 文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁/財団法人画像情報教育振興協会)

アート/エンターテインメント/アニメーション/マンガの4部門にわたり、その年を代表する優秀作品を選出してきた文化庁メディア芸術祭は、平成18年度で記念すべき第10回を迎えた。今回は過去最高の35ヶ国1,808件の応募から選り抜かれた受賞作品を展示し、上映、シンポジウム、企画展など多様なイベントによって入場者も前回は67,591人(10日間)に続き、66,765人(9日間)を記録した。受賞作品展のほか、若い才能あふれる「第12回学生CGコンテスト」、科学と芸術をつなぐ「先端技術ショーケース」などの企画、「アジア学生アニメコラボレーション」など多数の連携・協賛事業も展開され充実した展覧会となった。

第7回九州産業大学フォトコンテスト受賞作品

上野彦馬賞写真展

期 間 平成19年3月10日(土)～3月18日(日) 8日間
主 催 毎日新聞社/九州産業大学
後 援 文化庁/日本写真芸術学会/東京都写真美術館
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/コニカミノルタホールディングス株式会社/サイバークラフィックス株式会社/株式会社ニコン/富士フイルムイメージング株式会社/株式会社プロラボクリエイト福岡/エプソン販売株式会社/カシオ計算機株式会社

日本における写真の開祖上野彦馬の名前を冠する本コンテストは、写真文化の振興に力を入れている九州産業大学と毎日新聞社により実施され、「出てこい現代の彦馬たち」を合い言葉に第7回を迎えた。今回の上野彦馬賞は東京の郡山総一郎が、ジュニア大賞には新潟の青柳彩が全国と海外からの応募作品2,652点の中より選ばれた。本展では、この大賞作品と入選作品72点のほか、長崎山崎べっ甲店所蔵「上野彦馬アルバム帖」の複写69点とともに展示構成した。

